

ファイナルレポート

国際レーザー・オプトエレクトロニクス応用技術専門見本市
 上海マシンビジョン見本市 / マシンビジョンテクノロジー & アプリケーション カンファレンス
 2020年7月3日～5日 / 中国・上海国家会展中心 (NECC)

2020年7月7日

LASER World of PHOTONICS CHINA 2020:
 フォトニクス技術がスマート製造を実現

Summary

- 来場者は3日間で57,135人
- 819の出展社が最新のソリューションを紹介
- ビジネスの再開により、困難な状況下で新たな機会を開拓



Facts & Data

会期	2020年7月3日(金)～5日(日) 午前9時～午後5時(最終日午後4時まで)
会場	中国・上海国家会展中心 (NECC)
主催	Messe München GmbH – メッセ・ミュンヘン MM (Shanghai) Co., Ltd. – メッセ・ミュンヘン上海
規模	53,060 m ² (2019年 60,750 m ²)
出展企業	819社(2019年 26ヶ国 1,177社)
来場者総数	57,135人 (2019年 65,705人)
専門分野	レーザー・オプトロニクス、光学、光学製造技術、センサー・測定技術、生産技術、光学測定システム、医療技術・バイオテクノロジー、イメージング、マシンビジョンイルミネーション
主な出展品	光学コンポーネント: レーザー・オプトロニクス、オプティクス、センサー、検査・計測、サービス オプティカル製造技術・光学アプリケーション: レーザー加工・製造技術、オプティカル計測システム、医療用レーザー、バイオフォトニクス・ライフサイエンス、イメージング、イルミネーション
専用URL	www.world-of-photonics-china.com (英語 / 中国語)

2020年7月3日から5日まで、LASER World of PHOTONICS CHINA 2020が開催され、大盛況のうちに幕を閉じた。オプトエレクトロニクス技術業界をリードする、質の高い、毎年恒例のこの見本市では、今回も多くの主要企業が一堂に会し、各社の新製品や技術、ソリューションが紹介され、近年の製造環境におけるオプトエレクトロニクス技術の将来の動向と展望が示された。

今回の見本市では、53,060平方メートルの展示スペースに、819社が厳格な安全ガイドラインに従って出展し、3日間で57,135人の業界関係者が来場した。

主催者メッセ・ミュンヘンの会長 Dr. Reinhard Pfeiffer は「新型コロナウイルス感染症 COVID-19 による困難な状況下において、大変多くの企業や関係パートナーに参加してもらい、見本市が成功裏に終了したことに深く感謝申し上げたい。メッセ・ミュンヘンの安全衛生政策によって、中国でこの重要な技術見本市を安全に開催することができたと改めて実感した」と語った。



ビジネスの再開により、困難な状況下で新たな機会を開拓

新型コロナウイルス Covid-19 の世界的な大流行は、世界経済に非常に大きな影響を及ぼした。しかしながら、中国は幸いにもその予防と管理を最初に成功させ、経済活動を徐々に再開させている。レーザー業界もまた、企業が日常の業務と生産を再開するにつれて徐々に活気を取り戻しつつある。近年、中国政府のインテリジェント製造への支援とアプリケーション市場の拡大という二重の恩恵を受けて、中国のレーザー産業は、今後急速に発展すると予測されている。

メッセ・ミュンヘン上海 COO の Stephen Lu は「2006年の第1回 LASER World of PHOTONICS China では、米国、ドイツ、日本の出展企業が高技術力に感銘を受けたが、それから15年の間に多くの中国企業が国際市場へ進出し、躍進する様子を見てきた」と話した。

中国光学学会のレーザー加工委員会ダイレクター Wang Youliang 氏は「2020年は特別な年になった。10年という歳月をかけた発展期を経た今、中国のレーザー産業は過渡期に入っている。Covid-19の流行の影響も重なって、我々が直面している課題は前例にないものになっている。しかし、これは新たなビジネスチャンスでもある」と述べた。

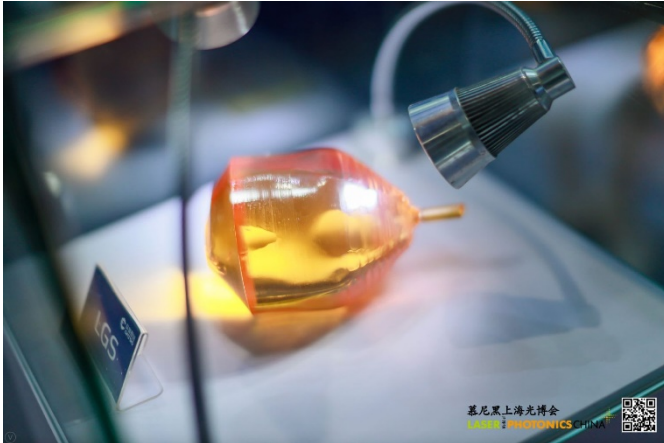
レーザー、赤外線、光学等の産業において種々の技術を有する出展企業は、経済活動の再開に欠かせない IR 熱画像体温計測技術、IR 温度測定、偽造防止レーザーマーキングなどの技術で Covid-19 との闘いに大きく貢献している。当見本市は、中国のレーザー・オプトエレクトロニクス業界とともに、業界の上流と下流を網羅する包括的な調達・供給のシステムを確立している。将来的には、生産プロセスの新しい要求に応じて、フォトニクス技術の需要がますます高まると予測される。中国の製造業界の活発な発展が紹介される一方、日本とドイツは、国別パビリオンを設置し、多くの企業がオプトエレクトロニクス及び関連産業における先進の技術力やアプリケーションを紹介した。



業界をリードする多くの企業が出展

近年、新エネルギー、5G、都市間高速道路、都市鉄道輸送など、7つの大規模な新しいインフラ建設が重要な段階にきている。関連のレーザーアプリケーションにおいては、大きなビジネスチャンスと課題に直

面している。見本市では、オリンパス(株)、コニカミノルタ(株)、浜松ホトニクス(株)、(株)キーエンス、(株)ミツトヨ、ダイトロン(株)、TRUMPF 社、Hans 社、HG Laser 社、Penta Chutian 社、Stäubli 社、Pretzter 社、HymSun 社、Coherent 社、Newport 社、IPG 社、Raycus 社、Laserline 社、nLight 社、Ruילayse 社、Amplitude 社、Ekspla 社、Lumentum 社、Torchlight 社、JPT 社、Edmund 社、Yongxin 社、CASTECH 社、Celera 社、Renishaw 社、PI 社、Baumer 社、ON Semiconductor 社、Baidu Cloud 社、Allied Vision 社、Basler 社、Vieworks 社、LUSTER 社、Daheng 社、Huaray 社などの主要企業が、革新的な製品やソリューションを紹介した。



TRUMPF 社の Huang Zhe 氏は「当社は多国籍企業として、サプライチェーンを維持するために最善を尽くしている。当社は初回から出展しているが、最新の技術やソリューションを把握するために多くの業界関係者が集まる非常に優れたビジネスの場だと実感している。出展社と来場者が情報交換をすることによって、市場全体の発展が促進されることにもつながり、当社にとっても大変重要な機会だ。中国レーザー業界の発展にはまだ長い道のりがあり、多くのビジネスチャンスもあると感じている」と話した。

中国製の革新的な製品も多く登場

今回は、「インテリジェント光製造」をテーマに、アプリケーションに焦点を当てた出展が多く見受けられた。会場では、多くの新製品が発表され、その多くは、新エネルギー、オートモーティブ、LiDAR(光による検知と測距)、バイオ発電、医療、5G、AI 対応処理、3C エレクトロニクスの分野に関連したものだ。

中国企業は中国のレーザー産業において重要な役割を話している。Raycus 社などの中国の大手ファイバーレーザー製造者、Everbright 社などの半導体レーザー製造者、Han's Laser 社や HG Laser 社、PENTA Laser 社などのシステムインテグレーターは、ユーザーという立場から、開発者や製造者へと徐々に変化してきている。

武漢 Raycus Fiber Laser Technology 社のジェネラルマネージャー Li Jie 氏は、「当社は設立から 13 年目となる。振り返ってみると、ここ数年間で、中国のレーザー産業は市場規模と技術の両面で急速に成長している。2009 年に初めてこの見本市に出展した時は、外国(中国外)の出展企業が大半で、中国の会社はごくわずかだったが、近年の発展により、今や中国のレーザー技術は大幅に向上し、国際市場で競争力をつけてきたと感じている。今後もこの見本市が業界を牽引していくものと期待している」と話した。

97 の会議プログラムを開催：産業界、R&D 及び学术界との緊密な連携

展示エリアに加え、PHOTONICS CONGRESS CHINA や、そのほかオンライン、オフラインの会議プログラムも数多く開催され、レーザー加工、高機能レーザー、光学技術、赤外線画像、LiDAR、レーザーの安全性、ビーム解析など、業界注目のテーマに焦点が当てられた。オフライン会議には、産業界、R&D、学术界から 2,678 人が参加し、緊密な連携が約束された。なお、会議会場では一定の距離を保った席を用意したり、マスク着用を義務付けたりと、可能な限り最大限の安全対策が講じられた。

中国科学院上海技術物理学院の学者 Chu Junhao 氏は「1990 年以降、多くの中小企業の成長により、中国の赤外線技術は急速に発展し



ている。この見本市では、毎回多くの国内外企業が参加し、相互にコミュニケーションを図っており、そのことが赤外線産業の急速な発展を促進させたのだ」と語った。

メッセ・ミュンヘンのグループダイレクター Mareile Kaestner は「今年は多くの難題があったが、LASER World of PHOTONICS CHINA 2020 が大成功を収められたことに深く感謝している」と述べた。

次回、LASER World of PHOTONICS CHINA 2021 は、2021年3月17日から19日まで Shanghai New International Expo Center で開催される。

詳細情報ならびに写真は、専用 HP www.world-of-photonics-china.com まで

LASER World of PHOTONICS CHINA 2020 / 併催の Vision China (Shanghai) 2020

主な出展日本企業(現法出展など含む)

(株)五鈴精工硝子、ウシオ電機(株)、SMC(株)、(株)オキサイド、沖電線(株)、(株)小坂研究所、オムロンセンテック(株)、(株)キーエンス、コニカミノルタ(株)、santec(株)、CBC(株)、シーシーエス(株)、ダイトエレクトロン(株)、(株)テクニスコ、日本電気硝子(株)、(株)日本フロンティア、日東光器(株)、浜松ホトニクス(株)、平河ヒューテック(株)、(株)ヴィ・エス・テクノロジー、富士フイルム(株)、(株)ミツトヨ、(株)モリテックス、安田産業(株) など (50音順)

資料請求、各種お問い合わせ先:メッセ・ミュンヘン 日本代表部

株式会社メッセ・ミュンヘン・ジャパン

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-20-3 ノアーズアーク虎ノ門 5階

Tel.: 03-6402-4583 Fax: 03-6402-4584 E-mail: info@messe-muenchen.jp

URL: www.messe-muenchen.jp (日本語) www.messe-muenchen.de (英語 / ドイツ語)